

# Monthly Report

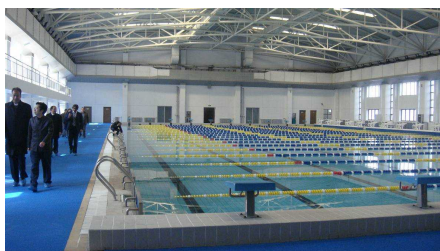
Vol.59 / 2011 Mar.

## 青海省体育科学研究所と国際交流協定締結



3月7日(月)、本学から朴澤学長、丸山研究科長、内丸講師が中国青海省に訪問し、中国の高地トレーニングのメッカ、そしてナショナルトレーニングセンターとしてマラソンや水泳競技選手の強化を担っている青海省体育科学研究所と国際交流協定を締結しました。この締結により、高地トレーニングや健康・体力に関する研究における学術協力や人材育成の分野で協力を図ることとなります。早速、4月から先方の研究員1名が本学の大学院研究生として1年間学んだ後、大学院1年コースに入ることが予定されています。

なお、今回の調印が青海省体育科学研究所の海外機関との初締結ということで、調印式には現地の報道機関も多数駆けつけ、その様子が中国全土に報道されました。



写真提供 / 朴澤学長・馬臨時職員

### 目次

青海省体育科学研究所と国際交流協定締結	1
競技力クリニックを開催 退職者辞令交付式	2
第6回健康福祉研究会	3
仙台大学学生表彰	4
国際交流	6
スポーツ情報マスメディア学科1期生が卒業	8
伊達なSPORT PROJECT 海外合宿	9
学生の活躍	10

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 「競技力向上クリニック」を開催



3月5日（土）に「競技力向上クリニック」を開催し、約400名の高校生に会場いただきました。このイベントは北海道・東北唯一の体育系専門大学として、スポーツに関する研究や専門指導者育成のために、具体的にどのようなことを実践しているのかを体験的に学んでもらい、高校に戻って部活動における競技力の向上に活かしてもらうことを目的に開催しているものです。対象は高校

1、2年生の選手とマネージャーで、体育大学ならではの研究成果を活かした「効果的な体力トレーニングの体験講習」や「スポーツ選手に適した食事の試食会」、「競技別の研修会」、「マネージャー向けの映像解析研修」などを実施しました。このイベントを通して、本学への興味を深めてもらえたことでしょう。

## 平成22年度退職者辞令交付式



3月31日（木）に法人事務局において退職者への辞令交付式が執り行われ、退職される教職員の方々に朴澤理事長より辞令が交付されました。今年度、本学で退職されたのは、須山享三教授、阿部武彦教授、柳久恒講師、安部俊三事業戦略担当課長、平島芳昌事業戦略担当課長、高橋美穂新助手（旧姓：上野）の6名です。辞令交付後の朴澤理事長挨拶では、これまでの功績に対して感謝の言葉がかけられました。今回は震災により、「定年退職者による最終講話」も中止となるなど、仙台大学を支えてこられた皆さまを手厚く送り出すことは叶わず心苦しい限りでした。退職される皆さまのセカンドステージでの益々の活躍とご健康を教職員一同でお祈り申し上げたいと思います。

## 第6回健康福祉研究会



去る平成23年3月4日（金）13時より、「第6回健康福祉研究会」が開催されました。

出席者は、93名（教職員20名、一般21名、卒業生18名、現役学生34名）でした。

本学では、平成16年度より、「健康福祉」をキーワードに介護、福祉、介護予防などの研究と研修を実施して参りました。今回は、健康福祉に関する人材養成の一つである「社会福祉士・介護福祉士」に焦点を当て、介護や福祉の資格保持の卒業生による実践を通じた報告や現場の施設長の方による特別講演を開催いたしました。

はじめに、小池和幸健康福祉学科長がこれまでの仙台大学における健康福祉学科の教育と人材養成について15年間のあゆみを振り返りました。それを受けて、「健康福祉分野における人材養成の展望～これからの福祉士の役割と仙台大学における人材養成のあり方」というテーマで公開シンポジウムを行いました。コーディネーターは大山さく子教授、シンポジストとして、（社）仙台ビーナス会 小規模多機能型居宅介護事業所の岡本雄輔氏（健康福祉学科7期生）、（医）松田会 介護老人保健施設エバーグリーン・ツルガヤの加藤綾氏（旧姓岩井、健康福祉学科10期生）、（社）全国社会保険協会連合会 介護老人保健施設サンビュー宮城の日野和基氏（健康福祉学科11期生）をお迎えしました。3名の卒業生には、それぞれの現場での活躍の様子をご報告いただいたほか、大学と施設側の連携がどうあるべきかなど

についてもコメントをいただきました。「どんな学生生活を送るかは自分次第なので、時間の使い方を工夫するとよい。様々な人との出会いを大切にしてほしい」などと出席していた現役学生に向けてのメッセージが送られると、学生たちは真剣に耳を傾けていました。

特別講演では、「福祉士教育の視点で見る現場と大学の連携のあり方」と題し、（有）福祉文化社代表取締役の毛利浩人氏にご講演いただきました。毛利氏は本学の介護実習施設の施設長もされています。ご講演の中で、「技術を教えるだけが実習ではない。学生が何に気づき、何を学ばなければならないかを知る機会を得る場所を学生に提供すること、学びのスイッチを押してあげることも施設側の役割である」とお話されました。そして、「施設側も学び、意識改革をすること、また、大学側から悩みを話してもらい、一緒に考え、強い連携を図っていくことが大事である」と述べられました。



< 情報提供：後藤講師 >

## 平成22年度 仙台大学学生表彰受賞者(在学生)

3月3日(水)にKMCHにおいて学生表彰が行われ、スポーツ競技において団体・個人で国際大会出場または全国大会において8位以上の功績を挙げた学生に対してスポーツ功労賞が贈られました。関矢准教授により一人ひとりの名前と成績が呼び上げられた後、団体の部の代表として新体操競技部の為積 瞳さん(体育学科3年)と、個人の部の代表として体操競技部の山本収一さん(体育2年)に表彰状と記念品が手渡されました。



### スポーツ功労賞:個人

氏名	クラブ名	大会名	成績
西村光生	漕艇部	2010 U-23世界ボート選手権大会軽量級男子舵手なしフォア	第7位
池内 風	漕艇部	2010 U-23世界ボート選手権大会軽量級男子舵手なしフォア	第7位
兼子貴江	柔道部	平成22年度全日本学生柔道体重別選手権大会女子78kg級	ベスト8
深谷実紀	柔道部	平成22年度全日本ジュニア体重別選手権大会女子44kg級	優勝
谷藤祐貴	BLS部	スケルトン アメリカズカップ 第7戦男子スケルトン	第6位
松本紳司	BLS部	スケルトン アメリカズカップ 第1戦男子スケルトン	第19位
渡辺瑞基	BLS部	スケルトン アメリカズカップ 第1戦男子スケルトン	第12位
米倉理絵	BLS部	スケルトン アメリカズカップ 第7戦女子スケルトン	第6位
今井功太	BLS部	ボブスレー世界選手権男子ボブスレー4人乗り	第25位
佐藤 亘	体操競技部	第64回全日本学生体操競技選手権大会男子種目別 つり輪	第3位
山本収一	体操競技部	第64回全日本学生体操競技選手権大会男子種目別 跳馬	第2位
菊池収祐	体操競技部	第64回全日本体操競技選手権大会男子種目別 跳馬	第3位

### スポーツ功労賞:団体

クラブ名	大会名	成績
漕艇部	第32回全日本軽量級選手権大会 男子エイト	第4位
	第37回全日本大学ボート選手権大会 男子エイト	第2位 他、多数入賞
	第88回全日本選手権大会 女子舵手なしペア	第3位 他、多数入賞
	第51回全日本新人選手権大会 男子エイト	第2位 他、多数入賞
新体操競技部	第62回全日本学生新体操選手権大会 女子団体種目別選手権の部7-7、女子団体総合	第5位、第7位
柔道部	平成22年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会 女子7人制団体	ベスト8
	平成22年度全日本学生柔道優勝大会女子5人制団体	ベスト8
トライアスロン部	2010日本学生トライアスロン選手権観音寺大会 男子団体	第7位
サッカー部	第34回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント	第3位
体操競技部	第64回全日本学生体操競技選手権大会 男子団体総合	第2位

## 平成22年度学生表彰受賞者(平成22年度卒業者分)

東北地方太平洋沖大震災で中止となりましたが、卒業式で授与を予定していた学生表彰受賞者は以下の通りです。

### 学長賞受賞者

氏名	クラブ名	大会名	成績
佐藤寛大	陸上競技部	第80回日本学生陸上競技対校選手権大会男子やり投げ	優勝(2連覇)
亀山耕平	体操競技部	2010 モントリオール国際男子種目別 鉄棒	優勝
別府晃至	漕艇部	第36回全日本大学ボート選手権大会男子エイト	第2位
加藤 徹	漕艇部	第37回全日本大学ボート選手権大会男子舵手なしフォア	第2位
清野拓也	漕艇部	第36回全日本大学ボート選手権大会男子舵手つきフォア	優勝
高澤隆介	漕艇部	第36回全日本大学ボート選手権大会男子舵手つきフォア	優勝
北沢 碧	漕艇部	第49回全日本新人選手権大会女子舵手つきクワドルブル	第3位
高崎智世	漕艇部	第35回全日本大学ボート選手権大会女子舵手つきクワドルブル	第2位
殿川 葵	漕艇部	第35回全日本大学ボート選手権大会女子舵手つきクワドルブル	第2位
小沢まり	BLS部	スケルトン アメリカズカップ 第5戦女子スケルトン	第6位
和泉 隼	サッカー部	第34回総理大臣杯全日本大学サッカー大会	第3位
大金祐輔	サッカー部	第34回総理大臣杯全日本大学サッカー大会	第3位
李澤忍治	サッカー部	第34回総理大臣杯全日本大学サッカー大会	第3位
山崎航太	サッカー部	第34回総理大臣杯全日本大学サッカー大会	第3位

### スポーツ功労賞:個人

氏名	クラブ名	大会名	成績
上村昌志	トライアスロン部	2010 日本学生トライアスロン選手権観音寺大会男子個人	第7位

### 文化功労賞受賞者:個人

氏名	クラブ名	実績
佐藤奈菜	学友会	学生委員長(H20年度およびH21年度)として学友会活動に貢献
鈴木笑美梨	学友会	大学祭実行委員長(H21年度)および学生委員長(H22年度)として学友会活動に貢献

### 介護福祉士養成施設協会会長表彰

氏名	クラブ名	実績
田中麻美	健康福祉学科	本学健康福祉学科介護福祉士養成過程において、学業成績、人物ともに他の模範となるべき学生

### 全国栄養士施設協会会長表彰

氏名	クラブ名	実績
黒田早紀	運動栄養学科	本学運動栄養学科栄養士過程を優秀な成績で卒業する学生

## 海を越えて輝く学生達 Winter 2011

### ～ハワイ州立大学アスレチック トレーニング・ベーシックコース研修終了～



2月21日～27日（5泊7日）、ハワイ州立大学（UH）において、AT（アスレチック トレーニング）のピギナーズコース研修が実施されました。2003年12月から始まったこの取り組みは「ピギナーズ」（＝ベーシックコース）と「アドバンス」を合わせると今回で12回目。参加した3名の女子学生達は（貝沼由香里、菅原夕貴、遠藤蓉子：全て体育学科2年生）少人数だからこそより密度の濃い、充実したプログラムに懸命に取り組み、充実した時間を過ごすことができました。今回の研修の目玉である「現地クリニックの見学」と「女子バスケットボールの試合帯同」を中心にご紹介致します。

#### 1.研修内容

Hawaii Optimum Performance（現地クリニック見学）

今回初めて実施したHawaii Optimum Performance（HOPS）の見学。日本語でクリニックと称すると「病院」というイメージを持ちがちですが、HOPSは比較的斬新なコンセプトを元に作られた施設で、その施設の半分は理学療法士が常勤するクリニック、もう半分はアスレチックトレーナー（AT）が患者（大学レベルのスポーツ選手・小中高生）の身体機能評価を行い、トレーニングを指導する形になっています。一連の流れとしては、病院から紹介された患者を、まずは理学療法士が物理療法・運動療法を用いて日常生活に不自由がないレベルまで回復させます。その後、ATが評価し、機能的に不足している筋力・バランスなどをトレーニングを通して指導し、選手の復帰を助ける形になっています。HOPSは類似する領域である理学療法士とATが相互協力している成功例として、このコンセプトは日本でも充分応用できると思われれます。（医師の指示に基づく理学療法士・柔道整復師・アスレチックトレーナーによる機能的評価に基づくトレーニング）といった連携を一つの施設で行う事が出来れば、本国でのAT職域がより一層広がるのではないのでしょうか。

ハワイ州立大学女子バスケットボールチームの試合帯同

ベーシックコースの目玉に、女子バスケットボール部の試合の帯同があります。今回は人数が少なかったことが幸いし、各学生がベンチに座り、タイムアウト中の水分補給を担当させていただきました。このようなことを短期研修で実施するのは非常に難しく、貴重な経験です。学生達は森部氏（UH女子バスケット部帯同AT）の動きを身近で学ぶことができ、心から感動していました。＜情報提供：白幡新助手＞

#### 2.ピーター・田中氏への感謝状授与

滞在中の2月23日、朴澤学長より、UHアウトリーチカレッジの前学部長であるピーター・田中氏に対し、永年のご支援とご尽力に対し「感謝状」とこれまでの足跡である写真や資料など一式が贈呈されました。田中氏には1997年以来、10数年の長きに亘り、明成高校及び本学の生徒・学生のUH研修受け入れについて格別の高配を賜り、2007年11月17日に挙行した開学40周年記念式典では「日米大学の相違と大学の国際化」と題してご講演をいただきました。ピーター先生は「仙台大学の国際化、NATA参加及びそのカリキュラムの日本への導入、次々と実行なさる改革、海外との提携など、朴澤学長の先々の大学経営者としての前向きな姿勢と熱意に感動賛同し、少しでもお手伝いが出来ればという考えでございました。その一端として、わたくしの出来るハワイ州立大学関係のプログラムがご希望に沿う、実のあるものになるよう努力してきただけです。ですから、本来ならばわたくしの方からお礼述べなければと考えておりました。ですが、このような形でわたくしの微力を認めていただいた事に感謝し、深くお礼申し上げます。」と述べ、本学との懐かしい思い出に浸っていらっしゃいました。

#### 3.新学科長 ウィリアム・チスマー氏

同様に3月23日、朴澤学長は田中氏の後任であるアウトリーチカレッジ新学部長のウィリアム・チスマー氏にお目にかかり、関係者と共に本学とUHとの今後の提携強化について話し合われました。

今回の学生達による報告会が、カヤ二応用科学大学、台東大学での研修に参加した学生達と合同という形で、近じか実施される予定です。それぞれ異なる国における勉学の成果が発表されると共に、次回のより良い研修実施に向けて活発な意見が交わされることでしょう。

## カヤーニ応用科学大学、台東大学への短期留学生在が無事帰国



狩野さん(中央下)、恒田さん(右下)



中津さん(左)

短期留学プログラムとして、カヤーニ応用科学大学(2/21~3/15)、台東大学(2/28~3/28)に留学していた学生4名が無事に帰国しました。各々、晴々とした表情で、素晴らしい体験をしてきた様子をうかがい知ることができました。カヤーニ応用科学大学に留学した狩野良介さん(体育学科1年)に話を聞くと、「カヤーニ応用科学大学では、他国の留学生とも交流を深め、たいへん貴重な時間を送ることができました。英語力が不足し、自分の想いを伝えきれなかったり、相手の想いをわかってあげることができなかつたのでそれが今後の課題です。仙台大学は「英語でスポーツを語るキャンパスづくり」という表記を掲げて英語を使う機会を増やす取り組みをしており、私も英語力を向上させていきたいです」と話していました。また、今回の留学中に発生した東北地方太平洋沖地震については、「フィンラン

ドでも震災のニュースは大きく報道されていたので、津波で甚大な被害が出た実家のある塩釜市(宮城県)の家族や友人の安否が心配でした。幸運にも私の家は被害を免れましたが、被災した友人も多数います。慣れ親しんだ塩釜の町並みが変わり果ててしまった今、一日も早い復興を祈っています。」と話していました。

### [短期留学生]

#### ・カヤーニ応用科学大学

なかつのりひろ

中津範洋さん(大学院1年)

つねだみか

恒田三加さん(運動栄養学科2年)

かのりょうすけ

狩野良介さん(体育学科1年)

#### ・台東大学

ながい のぞみ

永井 希さん(体育学科3年)

## 船山弘希さんが目標としていたプロ資格を獲得

~ 国内最高峰大会である全日本スノーボード選手権で3位表彰台 ~



船山弘希さん(健康福祉学科3年/スノーボード同好会)が3月9日(水)に行われた「第29回全日本スノーボード選手権大会デュアルスラロームレース(長野県白馬五竜スキー場)」で3位入賞を果たし、今シーズンの目標だったプロ資格条件を満たしました。来シーズンはプロスノーボーダーとしてこれまで以上に活躍の場を広げることとなります。なお、3月25日付けのツアーランキングは2位となっております。

JSBA全日本選手権デュアルスラローム一般男女公式結果

[http://www.jsba.or.jp/ajsc\\_site/ajsc29/userdata/results/du/du\\_or.pdf](http://www.jsba.or.jp/ajsc_site/ajsc29/userdata/results/du/du_or.pdf)

JSBA公認競技会ツアーランキング(3/25付)

[http://www.jsba.or.jp/rankings\\_all/2010/tour/tour\\_sl\\_m.pdf](http://www.jsba.or.jp/rankings_all/2010/tour/tour_sl_m.pdf)

## スポーツ情報マスメディア学科1期生が卒業

平成19年4月に開設したスポーツ情報マスメディア学科が初めて卒業生を輩出しました。1期生2名から震災前にコメントをもらっていましたので紹介します。

ただきしんご

### 唯木伸悟さん



出身校 / 福島県立湯本高校  
部活動 / 準硬式野球部  
就職先 / NTT東日本

スポーツ情報マスメディア学科に進学したのは、保健体育の教員を目指していたことと、新学科の1期生ということで、体育以外の分野も学べると考え、進学を決意しました。

スポーツ情報マスメディア学科では、ベガルタ仙台や東北楽天ゴールデンイーグルス

など、学外実習の場を多く提供していただきました。ピッチ等の普段では立ち入ることのできない場所も見せていただき、色々な仕事があることと、その仕事の魅力に気付かせていただきました。この経験が、入学当初に目標としていた保健体育科教諭という仕事が憧れに過ぎなかったことを気付かせ、私の視野を大きく広げました。

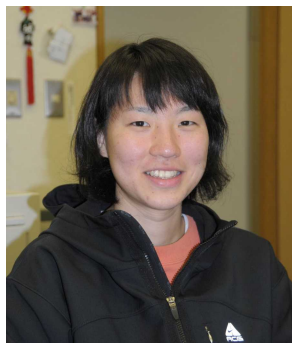
また、山内先生と齋藤(博)先生の講義では、ニュースについて自分の意見や感じた想いを伝える授業がありました。この授業は、現代人に欠けていると言われるコミュニケーション能力やプレ

ゼンテーション能力を養うためのもので、これからの人生にも役立つ素晴らしい内容でした。

これら多くの学びから、将来の夢を方向転換し、縁あってNTT東日本から内定を頂きました。しかし、私の就職活動は決して順調とはいえません。私は3年の10月から就職活動をスタートさせましたが、志望の一つであったマスコミ業界の募集活動は既に6月から始まっており、エントリーすることさえできませんでした。後輩たちには後悔しないよう、早く動いてほしいと思います。また、後輩達に伝えたいことは、就職活動は自ら動いて目で見て世の中、社会の情勢を知り、自分の想いを自分の言葉で表現するのが一番強いということです。場をわかまえる態度は当然ですが、「面接に行く」のではなく、「面接官と会話しに行く」というスタンスが自分を理解してもらうことにつながると思います。結果的に話が楽しければ面接官の好印象に残るはずです。

大学生活全般においても、強制的にやらされているのではなく、自主的に動いてほしいです。その方が楽しいし、後輩達にも是非そうして欲しいです。それが大学という所だと自分自身は思っています。

### ザイ テンリさん



出身校 / 朴沢学園明成高校  
部活動 / 女子バスケ部  
就職先 / ミズノ(中国)

入学前、スポーツ情報マスメディア学科のコンセプトである「情報を扱う」ということがどういうことなのか想像が付きませんでした。しかし、学科で学ぶにつれ、情報を扱い理解する力はどんな分野でも活かせることに気付かされました。教授陣も素晴らしく、スポーツ情報の分野だけ

でなく、社会に出て必要となるスキルをたくさん学ぶことができました。

私は朴沢学園に高校と大学あわせて7年間お世

話になりました。この7年間は「明成高校でのインターハイ出場」、「中国と日本の文化の違い」、「部活でのケガ」、「素晴らしい先生方・友人との出会い」などたくさんの経験を積みました。お世話になった朴澤理事長はじめ諸先生方に心から感謝しています。

卒業後は、ミズノ(株)中国支店に就職することになりました。しかし、前々から環境学にも興味があり、英語圏の大学に留学する夢を持っています。そのチャンスがきた時のために、以前、仙台大学教員でいらした太田正好先生に指導を仰いで英語の勉強もスタートさせました。今年1月に初めて受験したTOEICでは、自分の予想を超える760点を取ることができました。TOEICはビジネス用語なので、今度は留学のための英語TOEFLに挑戦したいと考えています。卒業後、中国に戻りますが、先生方が中国にいらした際には是非お会いしたいです。



## FIBT主催のトレーニング期間に「伊達なSPORT PROJECT」選手も参加



2月21日～26日は、FIBT（国際ボブスレー・トボガニング連盟）が主催する「ユースオリンピック世代のためのトレーニング期間」で、オーストリア・インスブルックのコースが練習のため開放されました。イギリス・アメリカ・ドイツ・スイス・カナダなどから同世代選手25名が集いました。「伊達なSPORT PROJECT」の3選手は共に海外が初めての経験で、移動時間・食事・時差など、環境が変わることの大変さを感じたようです。しかし、海外の同世代選手たちの滑走に刺激とヒントをつかんだようで、夏場のトレーニングでレベルをどこまで上げられるか、各人の踏ん張りに期待がもてます。

選手たちの今後の日程は、10、11月に北米で開催される選考レース（3レース以上）に出場してツアーポイントを獲得し、そのポイントでアジア・オセアニア地区の上位3名に入らなければ、ユースオリンピックの出場権を得ることはできません。レースに万全な体調で臨むためにも、今回の海外合宿は滑走技術だけでなく、海外での試合に向けた自己管理を経験できたことも大きくプラスになることでしょう。

### <海外合宿を振り返って>

安藤 早紀選手（柴田高校1年）

海外は初めてで、移動時間の長さに疲れてしまいました。食事面も含めて、海外で戦う大変さを体験でき、対策を練ろうと思いました。外国人選手は体格も筋肉もシッカリとしているうえに、滑走技術も長けていました。体格は違っても同じ人間なので、次の大会までに努力で何とかスタートダッシュのタイムを縮めたいです。

野倉 大樹選手（柴田高校1年）

ユースオリンピックに出場するためにはアジア・オセアニア地区予選で3位に入らなければなりません。今回のトレーニング期間にはアジア・オセアニアの相手国が参加していなかったのが残念でした。同世代の外国人選手の滑走を見ることができ、ヒントがつかめ、勉強になりました。自分を追い込んで頑張れば詰まるタイム差だと思うので、外国人選手より体格が小さいことをプラスにとり、回転数をあげるようにダッシュ方法を改良したいです。

佐藤 弾選手（柴田高校1年）

日本での生活リズムを海外で維持することが一番よい滑走につながると感じました。そのために就寝や食事の時間をどうすべきかを考える機会ができ、来年に向けて大きな収穫ある合宿となりました。今回の合宿を経て、「カーブの入口と出口の操作を少なくし、直線を長く取ること」、「スタートダッシュを大股で走ること」この2つの課題がみえてきました。カナダの選手は素晴らしい滑りでしたが、今後の練習で逆転のチャンスはあると感じているので、ユースオリンピックに出場し、カナダの選手と競いたいです。

## 本学サッカー部の2名がJFLに入団

今年3月に卒業するサッカー部の李澤忍治さん（青森山田高校出身）と大金祐輔さん（福島県湯本高校出身）がJFL（日本フットボールリーグ）に入団することが決まりました。本学でMFとして攻守に活躍した李澤さんがソニー仙台FCに、GKとしてチームを鼓舞し、一対一に強い大金がブラウブリッツ秋田へ入団することが決定しました。両名にはチームをJリーグ昇格に導く活躍を期待しています。温かい応援をお願いします。



李澤忍治さん



大金祐輔さん

## 奥埜博亮さんがデンソーカップでベストイレブンに

～全日本学生選抜の優勝に貢献～

奥埜博亮さん（体育学科3年/JFL・Jリーグ特別指定選手）が全日本学生選抜メンバーとして3月4日（金）～3月6日（日）に大阪府堺市で行われた「第25回デンソーカップチャレンジサッカー堺大会」に出場し、全日本選抜の優勝に貢献しました。奥埜さんは1回戦の関西選抜チーム、決勝戦の関東選抜Aチームの2試合に先発出場し、自らも果敢にゴールを狙うなど攻撃の基点となる活躍をみせ、ベストイレブンにも選出されました。

今年8月に開催される「第26回夏季ユニバーシアード深圳大会」の候補選手ともなっており、その活躍に注目が集まっています。



## 平成22年度卒業生からメッセージ - クラブハウス (KMCH) 掲示板 -

クラブハウス（KMCH）の掲示板に卒業生がメッセージを寄せてくれました。これは、震災後にKMCHのロッカーの荷物を取りにきた平成22年度卒業生が訪れた際に書いてくれたものです。震災に負けない決意や、本学への感謝の念が伝わっています。



- ・がんばろう東北！！がんばろう仙台大学！！
- ・Fight スポーツで明るい笑顔
- ・ここから勝負だ！！がんばれ仙台大学！！
- ・またみんなで集まるためにみんなでがんばろう！！
- ・みんなありがとう！！がんばれ仙台大学！！
- ・4年間ありがとうございました。みんなまた会おう。
- ・卒業式できずに残念でしたが、素晴らしい仲間と出会えた4年間でした。感謝でいっぱいです。ありがとうございました。
- ・みんなと卒業式を迎えたかった。たくさんの友達に出会えたこと誇りに思います。多くの方に感謝。ありがとうございました。
- ・私を強くしてくれた仙台大学、支えてくれた皆様方、本当にありがとうございました。
- ・この4年間で競技も人としても多くのことを学び成長できました。これからもこの経験を活かし、高めていきたいです。仙台大学の皆さんありがとうございました。
- ・吉田さん4年間ありがとうございました。
- ・楽しかった4年間。うらやましーなNEW体育館
- ・4年間 本当に楽しかったです。早くみんなと笑顔で会いたい！！がんばりましょう。